

Title	東亞天文協會觀測部月報
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1937), 18(201): 100-102
Issue Date	1937-12-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167584
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

東 亞 天 文 協 會

—(觀 測 部 月 報)—

流 星 課 だ よ り (77)

課 長 小 橋 孝 二 郎

謹みて1938年の歳旦を賀し奉る。

年初の四分儀流星群は2日が新月に當つてゐるので観測には絶好である。昨年観測不可能であつたことを省みて大方の奮起を促したい。嚴寒の眞只中であるが、観測の快味は充分味はれる。流星群の見られるのは1日～6日頃の一週間ばかりであるが、4日の曉に著しい極大が見られるであらう。2時以後は輻射點が地上に上るが4時～5時頃が見頃であらう。

本年は5月初の水瓶座 γ 流星群、7月末の水瓶座 δ 流星群、10月のオリオン座流星群、11月の獅子座流星群等は月明の妨害少く観測に好都合である。之に反して4月の琴座流星群、8月のペルセウス座流星群、12月の双子座流星群は一寸具合が悪い。

× × ×

前回報告後到着した観測は、實方雅雄(11月)、松橋高四郎(11月)、吉井耕一(10月)、堀田泰生(11月)の諸氏の方々からのものである。この他に本田實氏から停止流星(12月3日)の報告があつた。

11月の獅子座流星群の極大期にあたり、筆者の行つた観測概略は次の様である。14日のものは茂代の観測である。

日	観 測 時 間	流星數	獅子座流星	F
14	4時25分—5時25分 (60分)	7	4	0.9
15	4 0 —5 10 (70分)	22	2	1.0
16	4 0 —5 0 (60分)	23	9	0.8
17	4 50 —5 30 (40分)	8	3	0.7

極大は恐らく16日朝に起つたものであらう。

× × ×

昨年7月及8月の觀測集計は下表の通りである(12月6日記)

觀測者、觀測地及觀測數 (1937年7月及8月)

觀 測 者	觀 測 地	7 月			8 月		
		回数	時間數	流星數	回数	時間數	流星數
小 槇 和 枝	和歌山縣金屋	2	180	10			
實 方 雅 雄	京 城 府	3	365	56	3	345	66
小 槇 孝 二 郎	和歌山縣金屋	7	460	62	9	720	225
小 槇 茂 代	和歌山縣金屋	2	180	20			
吉 井 耕 一	廣 島 縣 竹 原				7	715	240
堀 田 泰 生	横 濱 市				2	215	79

遊 星 面 課 月 報 (11月)

木星はもう觀測の好機ではなくなつたが、火星の様に視直徑の縮少が速かでないから未だ12月一杯は見える。冬期に入ると例年の様に目立つてシーイングが悪くなるから、遊星面の觀察の様な精緻な仕事に適しない。今月に入つて木星のスケッチは青木章氏から8枚、宗田順二氏から2枚受取つた。共に器械の口徑が小さいので木星面の詳細は認めてをられないが兩スケッチから觀て、縞の太さ位置には變化は無い模様である。

火星觀測の記録は目下幹事の手で整理中、逐次天界に發表しますから詳細の記事の方に譲ります。(E. D)

〔第96頁より〕

自在些の手數も要しない。全體は稍大形の萬年筆程度であり、特に持重りがするといふ程のことはなく、充分輕快に使用できる。乾電池、豆電球、鉛筆は總て普通に得られるから、消耗品の補給は容易である。

尙、本器は特に吾々のみならず、廣く一般社會の夜間活動者に利便を與えることも、相當あらうかと思はれる。各方面に利用されることを願つてゐる。

(1937. ix)

太陽課 黒點相對數報告 (1937年11月)

觀測者(觀測地)	齋藤 平(臺中市老松町)	坂上 務(鹿兒島市)	後藤 一(佐賀市松原町)	久保 康則(高知高等學校)	本田 實(廣島縣瀬戸村)	伊達英太郎(兵庫縣雲雀丘)	改發 香嶋(神戸市關守町)	三宅 和夫(大阪府豊中市)	明星 商業(大阪市東區)	木邊 成賢(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市溝旗町)	沓掛 七二(長野縣青木村)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	淺居 正雄(橫濱保土谷區)	森久保 茂(橫濱市中區)	堀田 泰生(橫濱市鶴見區)	御供 印孝(東京市立一中)	菊池 芳雄(岩手縣水澤町)	田村 正三(函館市宮前町)
鏡徑 mm	50	34	60	75	50	80	150	50	25	75	25	102	55	58	45	38	60	50	58
倍率	50	53	80	53	59	70	68	88	40	60	48	75	64	60	60	50	50	50	64
1	101	曇	雨		曇	雨	缺	曇	缺	曇	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	雨	曇
2	忙	雨	72		雨	曇	雨	雨	雨	雨	曇	150	雨	曇	曇	曇	曇	111	曇
3	忙	曇	曇		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	123	曇
4	忙	雨	曇		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
5	68	雨	曇		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
6	70	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
7	12	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
8	34	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
9	58	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
10	90	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
11	86	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
12	旅	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
13	83	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
14	61	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
15	61	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
16	54	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
17	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
18	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
19	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
20	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
(21)	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
22	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
23	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
24	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
25	曇	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
26	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
27	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
28	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
29	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
30	忙	雨	雨		雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨	曇	曇
日數	14	13	20		16	9	14	11	18	17	13	12	13	10	4	11	10	6	6
平均	65	43	69		74	—	90	106	56	67	57	88	55	72	—	76	62	—	—

☑木邊氏の御感想「本月ハ著シク活動ガ平穩トナリ、黒點群モ概シテ規模ガ小サカツタ」

☑本田氏は11月分より經緯度圖によつて毎日の寫生を送られることになりました。

☑沓掛氏の緯度報告、同氏と正村氏との肉眼による可視報告は例月通り。

☑今回より會員たる坂上務氏(鹿兒島市山下町千石馬場通一丁目)が加入され10月10日の分から御報告及び10厘反射鏡による寫生を送られることになりました。 — P —